

○クローバーバス運行までの経緯

平成 19 年 12 月 14 日をもって長岡市山古志、太田地区の路線バス(株式会社越後交通による運行)の廃止が決定

【平成 18 年 4 月～平成 19 年 5 月】

- ・ 社団法人北陸建設弘済会は「北陸地域の活性化に関する研究助成事業」の一環として、北陸地域における課題に関してプロジェクトを立ち上げ、ともに研究活動を行う共同研究者を募集する「プロジェクト助成」を実施。
- ・ 路線バスの廃止が決まっていた長岡市山古志地区・太田地区の公共交通のあり方について検討を開始。

研究テーマ「中越地震被災地(中山間地域)の復興に関する検討 (公共交通)」

中越地震の被災地である中山間地においては、高齢者の増加・人口減少、バス路線の廃止・公共交通サービスの低下などの理由で、高齢者や自動車を利用できない人が生活を維持・継続することが困難になっている。こうした現状を踏まえて、山古志地域をモデルとして、持続可能な公共交通サービスを提案・実証実験を行う。

共同研究者

長岡技術科学大学 准教授	佐野 可寸志
長岡技術科学大学 准教授	上村 靖司
新潟大学災害復興科学センター 特任准教授	福留 邦洋
長岡市山古志支所長	青木 勝
金沢 LRT と暮らしを考える会 代表	谷内 昭慶
中越復興市民会議 事務局長	稲垣 文彦
金沢大学大学院 自然科学研究科 博士後期課程	宮崎 耕輔

研究提言

協議

長岡市

- ・ オブザーバーとして研究会に参加。
- ・ 研究会の提案である NPO 法人中越防災フロンティアが運営主体となることで支援。
- ・ 具体的な導入スケジュールを提示。

NPO 法人 中越防災フロンティア

- ・ 活動「豊かな自然と資源に恵まれた中山間地域に人々の暮らしから無理なく広がる、復興プロジェクトを地域のみなさんとともに立案、推進」
- ・ 研究会の提案に賛同し、山古志・太田地区生活交通の運営主体を了承

【平成 19 年 11 月～平成 20 年 3 月】

「山古志・太田地区生活交通協議会」
(社)北陸建設弘済会のプロジェクト共同研究の提言を受け、地域住民とバス運行実現のための運営・運行や地域の方への協力要請とその方法を協議するために長岡市が実施

## 協議会構成メンバー

立場	氏名	所属	備考
学識経験者	佐野可寸志	長岡技術科学大学准教授	プロジェクト助成研究会委員
学識経験者	福留邦洋	新潟大学准教授	プロジェクト助成研究会委員
地域代表	青木勝	長岡市山古志支所長	プロジェクト助成研究会委員
地域代表	坂牧正憲	山古志種芋原地区区長	住民代表
地域代表	若槻 敬	山古志虫亀地区区長	住民代表
地域代表	青木幸七	山古志三ヶ東竹沢地区区長、 山古志観光開発公社取締役	住民代表
地域代表	高野 定雄	山古志竹沢地区代表	住民代表
地域代表	森山重信	太田地区連合町内会長	住民代表
関係者	小川浩司	長岡市ハイヤー協会副会長	地元交通事業者
関係者	山口壽道	NPO 法人中越防災フロンティア 監事	バス運行主体

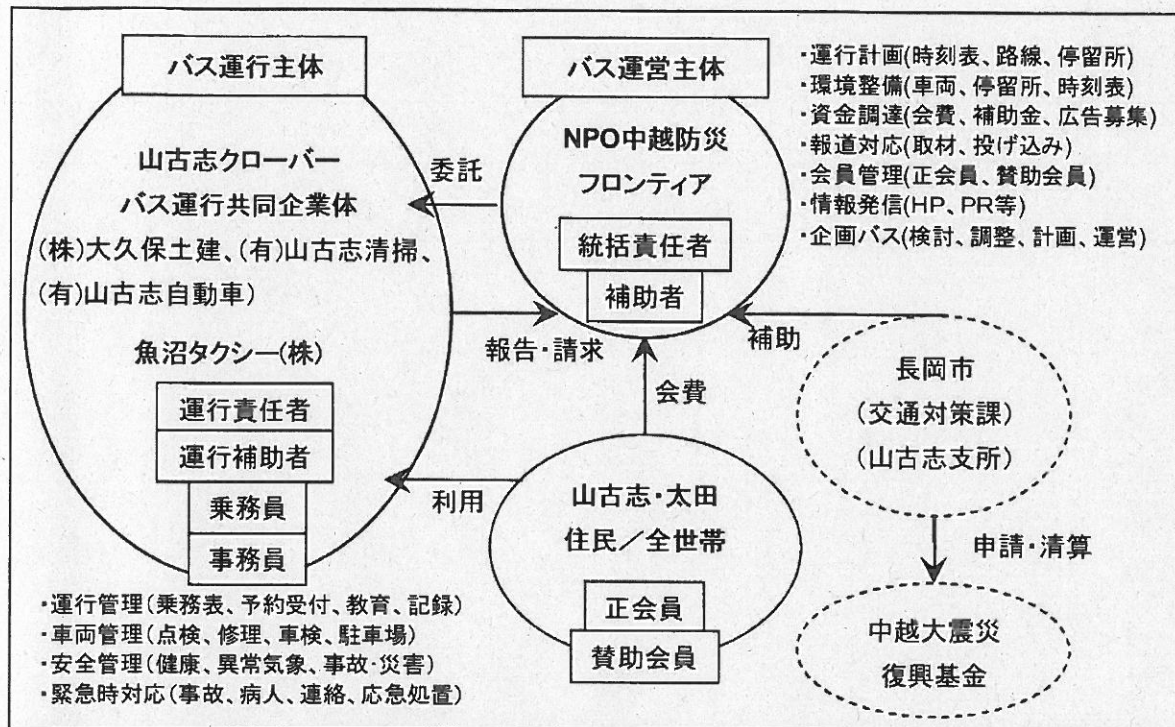
## 【協議結果】

- 5年後を目処に住民主体の運行を行うための暫定として平成20年7月1日より住民全世帯が会員となりNPO法人中越防災フロンティアが運行する会員制バス「クローバーバス」を運行することが決定
- 廃止となった路線バスの運行データと利用する地域住民への利用調査を元に運行路線、ダイヤを決定
- 5年後の地域移管を目指し、地元運行共同企業体(大久保土建、山古志自動車、山古志清掃)を発足して運行を委託

平成 20 年 7 月 1 日 クローバーバス運行開始



## ○運営組織



## 責任者・要員の役割

職名	責任と権限	氏名 (H23年4月1日現在)
統括責任者	クローバーバス運営の責任者	事務局長：斎藤隆 (NPO 中越防災フロンティア)
運営補助者	統括責任者を補助し、統括責任者不在の場合は代わって責務を果たす。	事務局：木村浩和、星野久美 (NPO 中越防災フロンティア)
運行責任者	クローバーバスの運行・管理に関する責任者	高野 徳義(山古志自動車)
運行補助者	運行責任者を補助し、運行責任者不在時には代わって責務を果たす。	田中 康雄(山古志清掃)
乗務員	バス運行計画、乗務表に基づきバスを運転。有事には現地に対応する。	各月の乗務員シフト表による
事務員	現地事務所にてデマンドバスの予約受付、乗務員への連絡などを行う。	(山古志自動車)

## 【日曜・祝日】

運行責任者	クローバーバスの運行・管理に関する責任者	小宮山 悦男(魚沼タクシー)
運行補助者	運行責任者を補助し、運行責任者不在時には代わって責務を果たす。	星野 亜美(魚沼タクシー)
乗務員	バス運行計画、乗務表に基づきバスを運転。有事には現地に対応する	各月の乗務員シフト表による



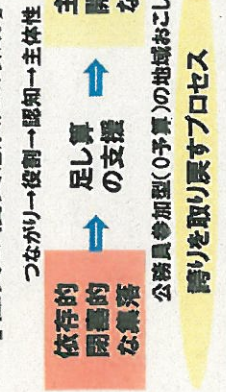
新潟県中越大地震からの中山間地域の5年間の復興プロセスと6年目以降のロードマップ

2004.10.23 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014

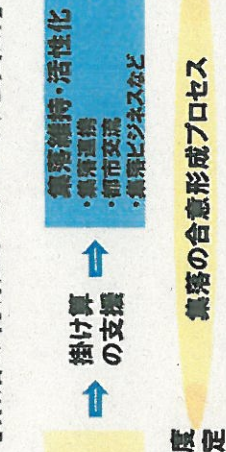
新潟県中越大地震復興計画



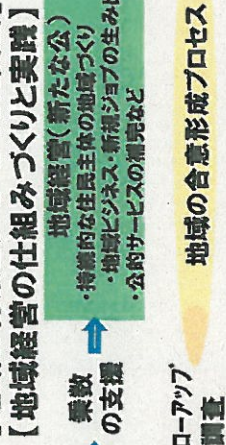
【住民の復興意識の醸成】



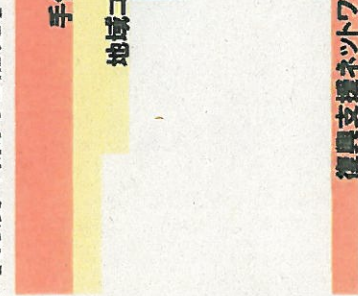
【集落の将来ビジョンづくりと実践】



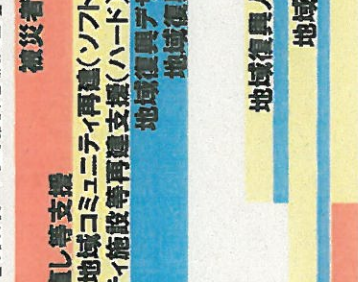
【地域の将来ビジョンづくりと実践】



【制度の隙間を補完】



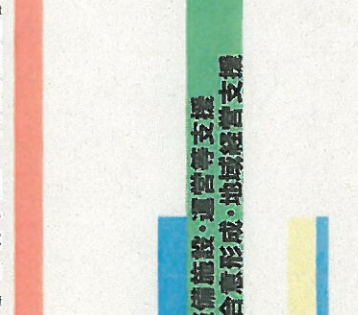
【集落の回復力促進】



【集落単位の自立促進】



【地域単位の自立促進】



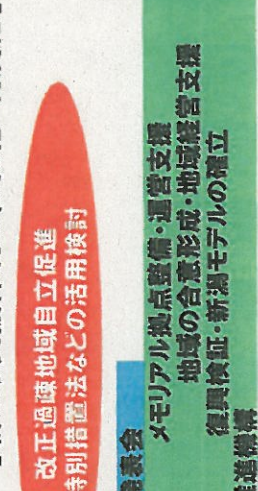
【復興支援の模索】



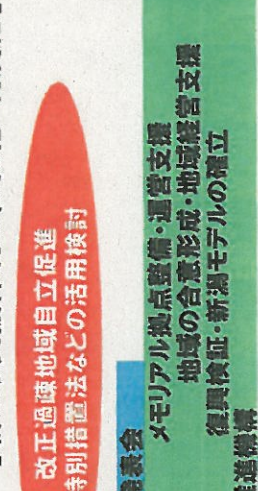
【連携】



【新たな支援体制の実験】



【新たな支援体制の仕組化・制度化】



中間支援組織とその活動

3型構造 (パートナー型支援)

中越復興市民会議

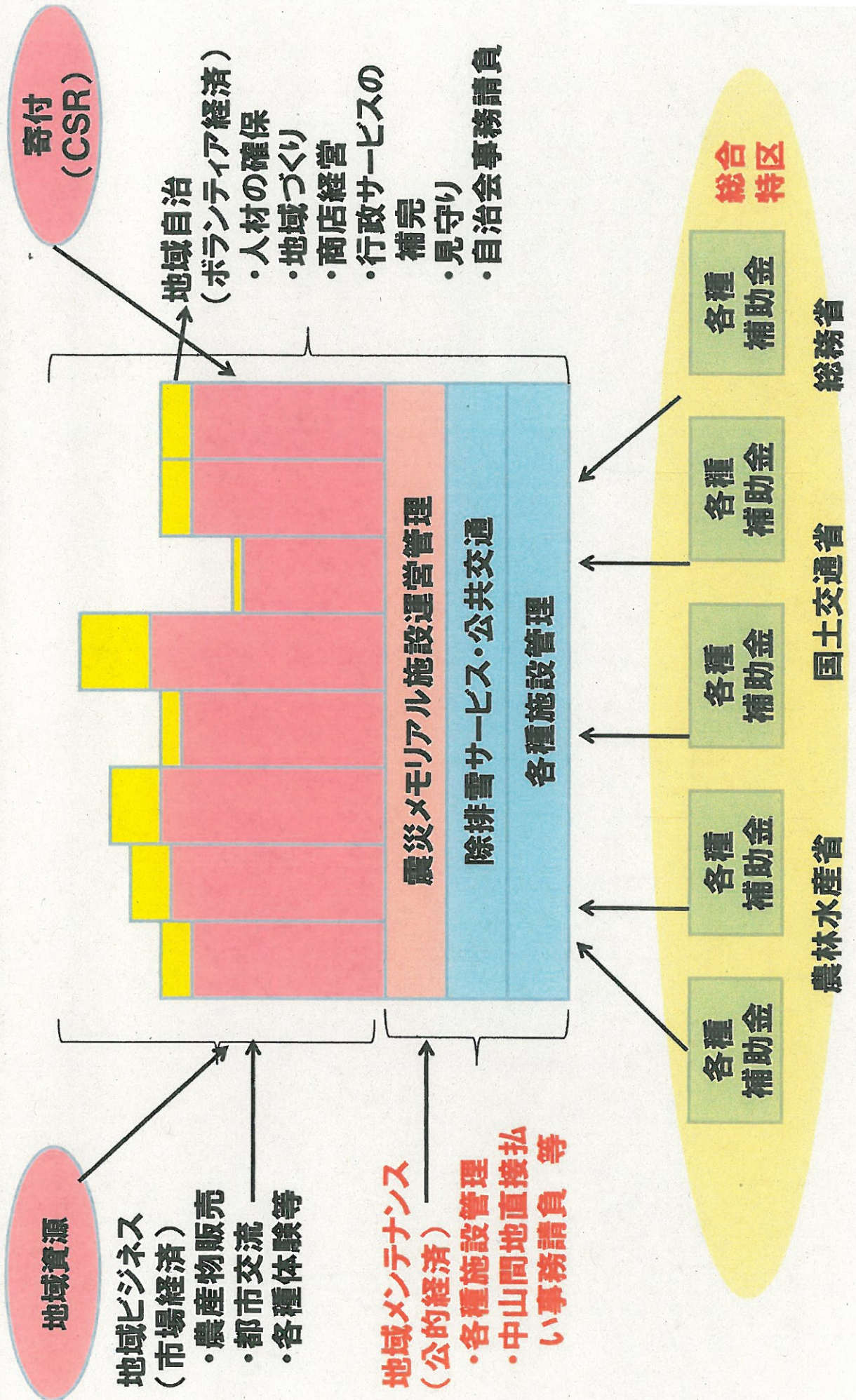
中越復興市民会議

中越復興市民会議

中越復興市民会議



持続可能な住民主体の地域づくりのための仕組みづくりモデル(地域マネジメント組織)





# 気仙文化圏半島部に対する中越からの支援プロジェクトの提案

## 中越復興の経験を類似環境の被災地へ

### 「農村部・過疎化進展地域での復興推進」

- ・ **過疎高齢化の進展への対策**  
→ 地域連携の推進(都市-農村/農村-農村)  
ex) 二十村郷(山古志・小千谷・川口)連携
- ・ **地域の強固な保守性打開への試行**  
→ 外部人材導入による新たな方向模索の動き  
ex) 復興支援員の導入
- ・ **適材適所の資金配分による自律的復興の支援**  
→ 復興基金の適切な運用
- ・ **行政への「陳情」ベースの地域対応からの脱却**  
→ 行政・地域・中間支援組織の有機的連携

中越だからできることを必要とされる地域へ

中越の経験  
伝達・実践

広田半島  
リ  
ーディングPJ

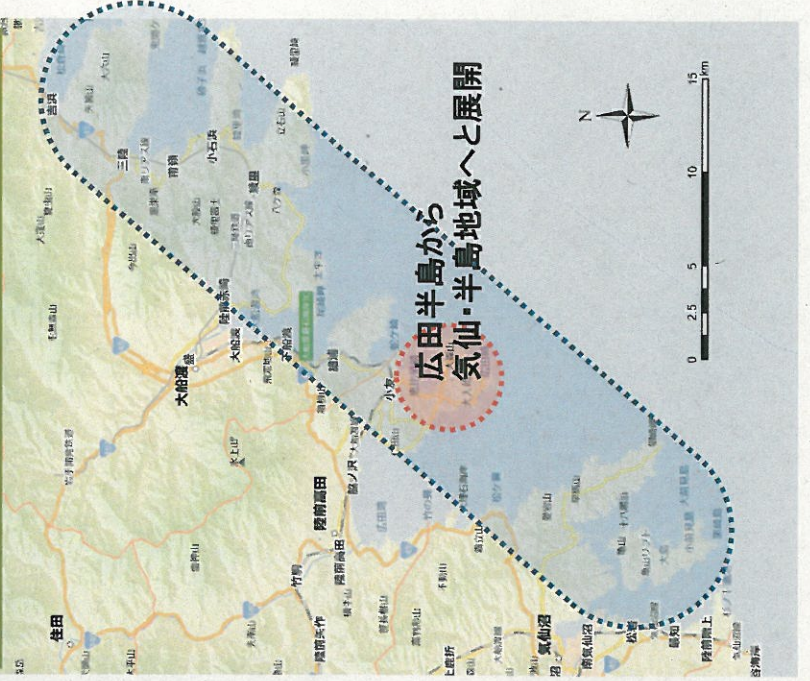
近接半島部へ  
の展開・連携

対象は「半島部の漁村」

中越防災安全推進機構  
による支援体制



類似した地域環境を持つ集落  
(半島に立地する漁村集落)  
の連携による復興の実現



広田半島から  
気仙・半島地域へと展開